

## 会議録

会議の名称	令和4年度第1回ふじみ野市地域福祉計画審議会			
開催日時	令和4年7月15日(金) 開会時刻 午前10時 閉会時刻 正午			
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎3階 A301会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	山本 美香	事務局	岩崎 明央
	副会長	岡田 哲郎	事務局	仲野 拓也
	委員	奈良 環	事務局	田中 由佳
	委員	今野 悦也	社会福祉協議会	嶋村 武彦
	委員	風間 和江	社会福祉協議会	植草 英二
	委員	金田 友記	ジャパン総研	地引 綾
	委員	當麻 俊輔	ジャパン総研	新橋 明奈
	委員	柳川 道子		
	委員	山城いづみ		
	委員	小林 和恵		
	委員	小菅 友美		
	委員	村田 和也		
	委員	正田 実		
会議の議題	(1) 第2期地域福祉計画(第5章)施策の展開の進捗状況について (2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画の策定スケジュールについて (3) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定に伴うアンケート調査について			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	福祉部地域福祉課			
議事の確定	確定年月日	令和4年8月 日		
	記名押印又は署名	役職名 会長 山本美香 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。		

## 発言の要旨

発言者	発言の要旨
岩崎課長	<p>会議開会に先立ち、事務局より伝達事項がございます。 市では、開かれた市政を推進するため審議会等の会議を公開することとしており、本審議会についても、会議を公開することとなっております。 本日の傍聴希望者はありませんので、このまま会議を開会させていただきます。</p>
岩崎課長	<p>1. 開会 それでは、令和4年度第1回ふじみ野市地域福祉計画審議会を開会します。 本日の審議会委員の出欠状況でございますが、欠席の委員は小泉委員の1名で、出席委員は13名となっております。本審議会の総委員数は14名です。本日の出席委員数は、半数以上が出席されており、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第2項に基づく審議会の開催要件を満たしていることをご報告します。</p> <p>また、本日の審議会では、「第2期地域福祉計画（第5章）施策の展開の進捗状況について」と「第3期ふじみ野市地域福祉計画」に関して審議をいただく予定となっております。</p> <p>こうしたことから、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第4項の規定により、ふじみ野市社会福祉協議会の職員、また第3期地域福祉計画策定のお手伝いをいただきます、受託業者の株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の職員にも出席いただいておりますので、ご報告します。</p> <p>（社会福祉協議会職員より自己紹介）</p> <p>（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所職員より自己紹介）</p> <p>どうぞよろしく申し上げます。 ここで、本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>（事務局より配布資料の確認）</p>
岩崎課長	<p>それでは、次第の「2. 議題」に移ります。 ここからの進行は、ふじみ野市地域福祉審議会条例第6条第1項の規定に基づき、山本会長にお願いしたいと思います。 よろしく願いいたします。</p>
山本会長	<p>2. 議題 （1）第2期地域福祉計画（第5章）施策の展開の進捗状況について それでは、議題1「第2期地域福祉計画（第5章）施策の展開の進捗状況について」事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>（資料No. 1により、新型コロナウイルス感染症による影響や令和3年度の特徴的な取組等を説明）</p>

山本会長	事務局から説明がありました。説明があった部分に関して何かご質問や意見等がありますか。
金田委員	説明があってわかりやすかった部分もあったのですが、調査項目等がたくさんあり、何が一番結果がよかったのか、何が一番重きを置いていたのか、市民の方々から好評を得たものや、継続してほしいという声があったものがあったのかなど、端的に教えていただきたいです。
事務局	地域福祉という観点におきましては2つありまして、ひとつが、先程の説明で申し上げた「第2層協議体」についてです。高齢者支援を中心に始まった話ではあるのですが、そういったところで地域内の団体同士がつながって助け合いの仕組みができていく、そういった土壌が整ったという点が重要と捉えられます。 もうひとつが、「重層的支援体制」というところで、生活に困難を抱えていて、実際に困った時には相談先がわからないといったことが多いのですが、そういった中で、ワンストップで相談を受けられる体制が整ったことが市民の方にとっては大きな成果だったのではないかと考えております。
金田委員	市がやったことに対して何が一番よかったのか、例えばバスなどの交通網がない地域に交通手段を手配されていたということ今回初めて聞いたので、何かそういった部分で「これはすごく良かった」という声があったものはありますでしょうか。
事務局	お出かけサポートタクシーは、元々ニーズが高く、台数が増えたということで市民からも好評をいただいているということを担当課から話をいただいています。各種相談窓口は、実際に相談に来る方以外はあまり改善の実感ができないかもしれませんが、タクシーですと一般の方も使いますので、台数が増えて少しは使いやすくなったという声もいただいたと伺っています。
金田委員	せっかく良いことをやられているのに、私自身もそのようなことをやっていると知らなかったの、SNSやホームページ、ポスターではなく違う手法でアピールすると、もっと困っている市民を助けられるなど思うので、そのあたりは今年度色々考えていかなければならないのではと思いました。
事務局	ご意見をいただき、ありがとうございます。
山本会長	地域福祉計画は取り扱う施策がとても広く、住民同士の方々がいかにつながりを持てるかということから、行政と専門職団体がいかにつながるかということや、相談窓口というのをいかにふじみ野市の中でたくさん作っていくとか、生活困窮の方、様々な課題を抱えた方の問題をどう解決するかなど、そういったことまですべて含んでいるので、非常に見えにくい、分かりにくいところはあるかと思えます。
金田委員	せっかく良いことやられているのにもったいないですね。行政は聞かないと教えてもらえない部分が多いので、行政の方も素晴らしい方がいます。予算の問題もあると思うので、逆に行政のほうからもっとアピールす

<p>山本会長</p>	<p>る体制があったらいいかなと思います。</p> <p>ご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>なかなか成果指標が見えにくいところがあって、今ご指摘いただいた「やっていることをアピールするといいいのではないか」というところもございます。その中で一番の根底は「ふじみ野市の方々がいかに社会参加していくか」ということがこの地域福祉計画の中では求められているということになるのです。</p> <p>先程ご質問のあった市内循環ワゴンのコース・タイヤの改定や、障がい者の方等へのタクシーの補助券を出すというようなことも、通常忘れ去られがち、あるいは社会の中で少し置いていかれがちな方々に、いかに社会参加していただくかというような事業としては非常に有意義な事業をやっておられたと思います。</p> <p>他に何でもいいのですが、例えば数値の変化等、気になる点がある方いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>私が驚いたのは、「コミュニティソーシャルワーカーの配置」について、令和5年度の目標値（2人）が令和3年度の実績値（4人）よりも少なくなっているところなのですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>こちらは、「令和5年度までに2人を配置しましょう」という目標値で計画されておりまして、この目標値が、地域福祉計画、そしてその上位計画である「ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030及び前期基本計画」の中で「2人」と位置付けられています。ただ、すでに「4人」ということで目標値を達成しているという状況が一点、それから、「ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030」も後期基本計画に移る関係で、今年度見直しがありますので、担当課としても後期基本計画の目標値を修正していくか、または別の目標値を設定しようかと検討を始めているところです。コミュニティソーシャルワーカーだけでなく、違う役割の人の配置を目標値に掲げるのか、すでに達成している数値について、目標値を上げていくのかということも含めて検討する予定です。</p>
<p>山本会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>先ほどの私のような質問でも結構なのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>今野委員</p>	<p>私は町会長もやっておりまして町会の活動をやっておりまして、今日は福祉の会議、明日は防災の会議、その次は環境の会議と、たくさんの会議に出席しています。町会の仕事をやり始めてから、このような素晴らしい計画やマニュアル、そういうものがたくさんありますが、私が必死になって活動しても、残念ながら一般の市民に伝えていく、町会としてどこまで一般市民に落としていけばいいのかわからない。</p> <p>地域活動の母体になっている自治組織がどんどん弱体化していて、目の前にはやらなければいけないことがたくさんありますが、民生委員関係など、力を合わせて活動しております。地域活動の母体になる自治組織などの大事な部分の活動について私たちも努力しますが、行政ももっと力を入れていただきたい。とにかく人材不足で会長や実行委員など22年ほど一人でやらざるを得ない状況です。今年で83歳になりますが、地域のみなさんに支えてもらってなんとかやっています。たくさん課題はありますが、基本は人づくり、後継者づくりが課題だと常々感じながら活動させていただいております。</p>

山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今野委員に教えていただいて、貴重な人材の醸成が大事なことだと思いますし、ここでやっていることをいかに一般の方に知ってもらって、協力していただくかということがとても大事ですけれども、そういう土壌作りもなかなか一朝一夕には進まないというのもおっしゃる通りでだと思います。そういった中でも、お話がありましたコミュニティソーシャルワーカーの方であるとか「第1層協議体」「第2層協議体」というものもありましたけれども。</p>
今野委員	<p>先程お話に出た第2層協議体の会議にも出席しています。こちらはとても広いエリアで、大勢の色々な層の人が集まっています。2週間前にも担当者で集まりまして、定期的に会議を開いています。私のところはようやくこの資料をもとに、夏から秋にかけて実践段階に入ろうと形ができてきたところですが、第2層協議体の中心になっているのはほとんど70～80代の高齢者で、若者はどこに行ってしまったのだ、というくらい少ないです。もっと言えば、外に出ても学校に行くような世代の子どもたちの声も聞こえないです。そういう高齢者中心の地域の中で何をやるかということ、秋に文京学院大学の学生さんと、社会福祉協議会、民生委員、町会の役員と一緒に、高齢者のお宅の家庭訪問を行う予定です。コロナの状況でどこまでやれるかわかりませんが、とりあえずやってみようということを進めています。第2層協議体に関して、私の地域はすごく進んでいますので、秋には色々な活動の結果が出てくると思います。</p>
山本会長	<p>社会福祉協議会の方にお尋ねしたいのですが、今野委員からも出たように、草の根的な人づくり、地域づくりについて何か進めていること、特に力を入れていることがあれば教えてください。</p>
嶋村事務局長	<p>どのようにして若い人に参加してもらおうかということが、第2層協議体の各4圏域でも課題に挙がっています。4圏域というのは高齢者あんしんセンター、いわゆる地域包括支援センターの4圏域に通ずる協議体です。山本会長からのご質問にお答えするというので、文京学院大学さんにご協力いただき、今回1つの地域に派遣させていただいております。地域の学校との連携を図るというのも進めているもののひとつとなります。また、コロナ禍で停滞してしまっていますが、「はじめてのボランティア体験」ということで、小学校5年生以上を対象に夏休みにボランティア活動に参加してもらおうといった事業を実施予定です。</p> <p>基本的には担い手が急に増えるというのはなかなか難しい現状です。地域の子育て世代の若いご両親に参加してもらおうこと、また、元気な高齢者の方にどう参加していただくかという点が課題です。政府は定年を延長していわゆる労働力として活躍していただきたいという方針ですが、これは地域で元気な高齢者を活かしましょうという方針には逆行している状況です。それをどう解消していくか、本来そういう方たちが地域で色々なことに関わっていただければ、元気な高齢者の参加というのも得られるのかなと考えております。そうすると、高齢者の方、若い方、学生さん、あとはこれから成人に向かっていく小中高校生に経験をさせてあげられると思うのですが、時間はかかるのかなと考えています。</p>
山本会長	<p>一般の住民の方にいかに参加していただくかということについては、岡田副会長がお考えを以前から述べていらっしゃると思うのですが、今野委</p>

<p>岡田副会長</p>	<p>員などのお話を聞いて、いかがでしょうか。</p> <p>本当にコアな課題で、私は今子育て世代なのですがけれども、やはり若い人たちにとっては地域になじみがなく、働く世代として働くのに精一杯で、地域の活動に入っていき入口づくりが課題になっていると思います。一旦地域に入ったけれども、「ちょっと自分には無理だな」とか嫌な思いをして出ていくとか、地域が、福祉的な誰もが関わられる環境になっているのかどうかということも、現在問われているのかなと思います。</p> <p>やはり、丁寧に地域参加の入り口を作っていくということもひとつの課題と考えます。その点では、お茶会などそういったところも、元気な方だけで参加するのではなく、例えば、障がいがある方や様々な課題を抱えている方々が、お互いの理解を深めていくような場を作っていくことも大切なことかなと思っております。</p>
<p>山本会長</p>	<p>ありがとうございました。 奈良委員はご意見等いかがでしょうか。</p>
<p>奈良委員</p>	<p>文京学院大学の話題も出していただき、ありがとうございます。この前話し合いに出席させていただいて、今年に入って、今は新型コロナウイルス感染者が増えてきてはいますが、色々なところからボランティアの依頼ですとか、会議に参加をしませんかとお声がけをいただくことがものすごく増えてまいりました。</p> <p>ただ、学内ではまだ参加していいかどうかの許可を大学に取らなければいけないのと、ほとんどの学生が社会福祉士、介護福祉士の資格を取るので、月曜から金曜までみっちり朝から晩まで授業があり、土曜日に授業が入る時もあります。その合間を縫って学生が活動するというので、私個人としては、福祉や介護を学ぶ学生が外に出ていく機会はありがたいのですが、ひとつの課題として、興味・関心のいう点では、福祉などに関心がない学生をいかにこちらに目を向かせるかを考えていかなければいけないのではないかと考えます。活動中、本当に学生はいきいきしております。久しぶりに地域の皆さまにお会いできたので、やる気スイッチが入るのですが、実際には時間的な余裕がない。ふじみ野市在住の学生ばかりではないので、時間がかかってしまうというような都合もあるかなと考えています。</p> <p>私自身、ふじみ野市に住んでいたのが随分前で、今は親と一緒に相模原市に住んでいます。実際、フルタイムで働いている私にとっては、ふじみ野市の福祉の状況は会議に参加しているので良く知っていますが、相模原市はどうなのと聞かれると、自分の住んでいる市のことは全くわからないのです。相模原市役所に友人がいるので、必要なことだけは時々教えてもらえるというような感じです。</p> <p>ふじみ野市は交通の便も良く、子育てもしやすいのだろうなと思うところもあって、また通勤がしやすく、若者世代が結構たくさん住んでらっしゃる。けれども、今の30～50代の働き盛りの人が、夜中に帰ってきて早朝出かける仕事をしていて、もし自分の家族の中に高齢者や障がいのある子どもがいたら、市の福祉の状況を見たくても見られないというようなところがあるのではないかと、というのを皆さんのお話を聞いていて思いました。その辺りのところをどうやって作っていくか、気持ちがないわけではないのではないかと、というのをすごく思います。必要はあるが知ろうとする余裕がないと知れない。そういう部分をどうしていけばいいのかというの</p>

<p>山本会長</p>	<p>も考えていかなければと思います。</p> <p>あと、基本的な質問になってしまうのですが、地域福祉計画の基本目標でそれぞれのものがあり、頑張ってきたのは私だけじゃなかった、コロナ禍でも色々な取組をされていたのだということがわかりました。それぞれの目標や目的があったと思うのですが、例えば、人数が増えたのはわかりますが、何かを開催したことに関しては、開催をするということが目標なのか、例えば、ふくし総合相談センターよりそい・にじいろのところで、カレーフェスタを開催しましたよというのは、事業所さんがたくさん参加して、つながる場所を作るとということが今回の目標なのか、ひとつひとつ前後を結構読み込まないとその時の目標が達成されているのか、ここは開催しただけですごいことだというのがなかなか伝わりにくいので、そこは記述の問題なのかもしれないのですがそのあたりがわかるといいなと思いました。</p> <p>どういう目標をたてて、どこまで成果があがったかというのをみると、なかなか見にくいところはあるかもしれないのですけれども、以前は割と数値で示していたのですよね。それだと、数値があがれば良いのかというようなことがあって、今回のような「こういうことをやりました」という表記の仕方に変わられたのではないかと思います。でも奈良委員がおっしゃることも本当にそうだなと思いますので、全部を見ていくということも大変ですけれども、表記の仕方、今後成果をどのように測っていくのかということ、もう少し記述の仕方、見せ方を考えていきたいなと思います。第一期から参加されている委員の方は変遷を見ていただいていると思いますが、以前は数値を示していただいて「これが変わりました」というような感じでやっていたと思います。</p> <p>(今野委員挙手)</p> <p>今野委員どうぞ。</p>
<p>今野委員</p>	<p>5月のゴールデンウィーク明けの6日から7月8日までの2か月間、コロナ禍で全く地域の活動ができなかったもので、町会でなにかやろうということになって、朝の6時30分から、NHKのラジオ体操を毎日やりました。町会としては、毎年8月に子どもたち向けに実施していたので、今回は地域の人を全部巻き込んでどのくらい来てくれるか状況を見たいのでやりました。だいたい1日20～30人、いらっしゃる方はほとんど高齢者です。朝の散歩や犬の散歩をしている人が結構いて、その人たちがほとんどでした。最初は1か月間、様子見でやったのですが、「やめないで」という声があったのもう1か月延長しました。ほとんどの参加者が毎日参加して、最後にはまた「やめないで」という声がありました。そこで感じたのは、行き場のない、朝起きてもやることがなかったり、なんらかの体の不調があったりするような人たちが来てくれて、そういう人たちからの「何か目標を作ってやってよ」という声に応えてやったということです。</p> <p>文京学院大学さんのお話がありましたが、私ももうひとつ視野を広げて、ラジオ体操に参加した半分は亀久保北町会、もう半分は町会以外の人たちを巻き込んで、その方たちにアンケートを取って、どういう生活をしていて、どういう問題があるのかなど踏み込んだこともやりたいと思いましたが、今回は開催したことが成果で、もう一回秋にやれたらいいなと思っています。一度やると期待されてしまうのですが、やる立場は大変で</p>

<p>山本会長</p>	<p>も、やった先のことを何とか形にしたいなと感じました。</p> <p>まさに今の話は、理想的なお話ですよ。ぜひ今度アンケートを取られたら教えてください。</p> <p>皆さま他にいかがでしょうか。今ご説明があったことへの質問でもいいですし、あるいは今日で第2期までの地域福祉計画の施策を振り返るということも区切りを付けますので、皆さま方が今感じておられる地域の問題や課題みたいなものがありましたらそういったものでも結構です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>風間委員いかがでしょう。民生委員として日々ご苦勞があると思うのですけれども。</p>
<p>風間委員</p>	<p>金田委員からお話であった地域公共交通のふじみん号についてですが、令和5年度にきちんとしたものを作るということで、現在計画を練っているところです。現在5回ほど会議を開いておりますので、もう少しお待ちいただければと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>民生委員としましては、やはり感染防止対策をしながら、どのように活動ができるかというところで工夫をしております。直接お会いできなくても、電話や手紙を使って活動しております。そういう中でも、ふくし総合相談センターよりそい・にじいろで相談に乗っていただけますので、行政にも繋げやすく民生委員としても少し楽になる、ありがたい状況になっています。何をするとといったことではなく、まず地域福祉の向上のために、地域を回って、状況を把握して、そして困りごとを解決していくというのを中心にやってくださいと申し上げております。そのような状況であります。新型コロナウイルスの感染者が減少すると思っていたところ、ここでまた第7波で感染者が多くなっています。そういった中での活動も色々と考えていかなければならないと思っております。</p>
<p>山本会長</p>	<p>感染が広がる中で、繋がりを切らさないという工夫をしての民生委員活動をされてきたと思います。本当にありがとうございます。</p> <p>當麻委員はいかがでしょう。何かお感じになっていることありますかでしょうか。</p>
<p>當麻委員</p>	<p>見ていて思ったのが、第2期地域福祉計画はコロナ禍の中での計画期間だったと思います。資料を見て、コロナ禍の後のことも付け加えないといけないと思いました。</p>
<p>山本会長</p>	<p>おっしゃる通りで、「ウィズコロナ」なのか「ポストコロナ」なのかという観点も大事ですけれども、當麻委員のお考えになることで、こんなことを続けていけたらいいな、コロナ禍の中でも続けていけるのではないかなというものはありますか。</p>
<p>當麻委員</p>	<p>高齢者と子育て世代を比べると、子育て世代は携帯などですぐ情報を得ることができますが、高齢者はそれができないので、そういった部分をなくすと言いますか、情報の共有できれば一番良いと思うのですけれど。上手く言えなくて申し訳ないのですが。</p>
<p>山本会長</p>	<p>そうですね。</p> <p>若年世代とそうでない世代では、情報に接するアクセスの仕方や媒体が</p>



<p>當麻委員</p>	<p>異なってきますよね。</p> <p>商工会の青年部でやる事業が、紙面とSNSが同時で進行していくので、どのくらい共有できているかわからないのですが、情報の共有というのは大変なことだと思います。</p>
<p>山本会長</p>	<p>そういう意味で言うと、ご高齢の方も今スマートフォンを持っている方も多くて、私の大学の方にも「スマホ教室を開いてほしい」というニーズもすごくあって、自治体さんから申し込まれたりしています。小さな事業ではありますが、そういうことで多世代交流ができる、あるいは、情報提供の仕方が今後変わってくることを考えると、そういう事業は引き続きやっていけたらと思います。ぜひ今後ともご協力いただければと思います。</p> <p>柳川委員はご意見等、いかがでしょうか。</p>
<p>柳川委員</p>	<p>私は民生委員の活動や地域の活動、あるいは社会福祉協議会の活動をしながらか、障がい者の地域生活を支援する活動をいくつかしています。</p> <p>このところよく感じるのが、新型コロナウイルス感染症の問題も大きいとは思いますが、市民生活がどうなっているかというところに直面することが多いです。</p> <p>若い人も含めた市民生活が醸成されているかなというところで見ていると、地域の暮らし、特に上福岡駅からの通りを見て気になるのが、非常に寂しい感じがして、新型コロナウイルス感染症の影響もあるのかもしれませんが、空き店舗が多いのもあり、かつてはメインストリートだった場所が痛々しい感じがして、何かできないかと思っています。</p> <p>実際、若者も何かすると言ってもたむろする場所がないのではないかと思います。自治組織も高齢化が進んでいて若い人が参加できていないです。地域をまわっていると子育て世帯のお母さんと話すこともあり、忙しい人ばかりでなく、家にいる人もいるので、そういう人が自治組織や社会福祉協議会の活動に入ってくるとかなり違うのではないかと思います。環境的に活動が届いてない感じがします。</p> <p>様々な福祉の体制がありますが、相談の内容がひとつの窓口だけでは済まないことも多いです。地域福祉だけでなく、福祉の制度が縦割りになっているので、福祉総合支援チームが地域で活躍してくれるというのは民生委員にとって、特に地域の子どもに関する、例えば子どもに関する通報などの身近な相談をしやすくなっていて、非常に助かっています。体制が完全にできあがっているとは言えないのではと思いますが、福祉の体制として絶対に必要なものであったと実感しています。</p> <p>地域の考え方の問題といえば、若い人たちをどう取り込んでいくか、社会福祉協議会や自治組織だけでなく、まち全体の問題ではないかと思います。そういうところに地域福祉が足を踏み入れていると考えるといいのではないのでしょうか。</p>
<p>山本会長</p>	<p>福祉総合支援チームが評価をいただいていたね。</p> <p>山城委員、いかがでしょうか。先程のご意見に関して、またはそれ以外でも何でも結構です。</p>
<p>山城委員</p>	<p>私はもう子育ては終わっているのですが、子どもたちに関わることは大変多いです。ふじみ野市の子どもたちはとてもボランティア精神が豊富ですね。「地域の人たちにお世話になっているので自分たちも少しでも役に</p>

	<p>立ちたい」ということで考えている子どもたちがとても多いです。</p> <p>私は、資料にある体験学習でボランティアをやっていますが、子どもたちに車いすに乗る人と押す人を体験してもらっています。コロナ禍前は全部の学校で複数回、色々なことを体験させていただいていたのですが、今はもう、人との接触を避けるということで、貴重な時期に貴重な体験をできない状況になっています。子どもたちもどんどん成長してしまうので、中学生の頃に体験できなかったことを高校生で体験することはなかなかできないので、子どもたちの成長にとっても非常に残念だと思います。</p> <p>もう一つ資料に載っている私たちの活動の「彩の国郷土かるた大会」についてですが、小学生で参加していた子たちが、中学生では審判として参加してくれていました。コロナ禍前はだんだん数が増えて20人くらいになっていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で大会も中止になり、子どもたちも進学していき、いなくなってしまうので、またゼロから始めていかなければと思っています。</p> <p>今年は少しずつ始めていく予定で、ジュニアリーダーの募集や、参加者の距離を取りながらの実施等、貴重な子どもたちの活力を発揮できる場を作っていけたらと思っています。</p>
山本会長	<p>小林委員はご意見等、いかがでしょうか。</p>
小林委員	<p>こちらの地域福祉計画も少しずつ進化させていって成果も出ているという事は理解できるのですが、先程からお話しあるように、一般市民になかなか情報がいかないというところもあると思いますが、私たちが支援を行っている人たちにはそれ以上に情報が届いていないことがあります。</p> <p>ふじみ野市には協働推進課をはじめとしてご協力をいただいて、生活相談を行っているのですが、コロナ禍での生活困窮やフードバンクなどの行政からの通知や申請方法などがわからないという方を支援して解決していることが多かったです。最近では入国緩和の影響で海外からのお子さんの呼び寄せがかなり増えています。もともと親御さんも日本語を話せない人が多いのですが、さらにそういう方が増えています。</p> <p>学校や行政、団体が地域との関わりや役割をそれぞれ明確にしていかなければという印象です。</p>
山本会長	<p>特に、このコロナ禍で外国の方で日本にいらっしゃる方の問題、生活困窮なども増えていますよね。せっかくふじみ野市には素晴らしい団体があるので、もっと進めていけたらと思っています。</p> <p>小菅委員、専門職の立場からご意見等いかがでしょうか。</p>
小菅委員	<p>事業所の方は、作業等で作ったものを市のイベント等に出していただいて、作って売るという対価のところでは障がいのある方たちが、自分たちのやっている仕事がお金に繋がるという貴重な体験ができるのですが、それが3年くらい市のイベントもないので全くなくなってしまって、利用者さん自体も外に出る機会、一般市民の方や、普段お付き合いのない方たちと対人する場がほとんどなくなってしまっている状況が続いています。</p> <p>今後どのような形でイベント等が再開されるのか、作業所でなくてもみんな余暇がなくなってしまっています。お家の方のそうすし、電車に乗るのが好きで都内に出かけていた人も、行動が制限されてしまうことで、お家で大きな声や動きをしまってということも少なからずあります。</p>

	<p>そういった生活の中で、お家の方が疲れてしまって、ショートステイを利用したいと思っても、預け先がない、どうしたらいいのかということも増えています。ふじみ野市での障がいの部分のサービスの不足をどう増やすか、そこには人材不足も関係していて、ほとんどの事業所が欠員状態で事業を行っています。そういったところも、地域自立支援協会では課題に挙がっています。その中で、出生率は下がっているものの障がい者は増えている傾向にあると思います。そして医療が進んだ半面、医療的ケアが必要になる人も増えています。現在、そのようなサービスが市内にはほとんどありません。また、高齢者になった障がいのある方たちは行き先が見つからないということもあります。その状況で、地域の中で障がいのある方が暮らしていくシステムづくりをしていかないといけないと思いました。</p> <p>さらに、自治組織の方との協力をどのように進めていけばいいかということも課題になっています。おおい作業所は市の外れにあるので、自治組織というかご近所さんも何軒かしかないなので、そういったところとの繋がりを作るのがおおい作業所がもっている課題です。そういったところで市民の方と繋がれるかも課題です。</p>
山本会長	<p>そうですね。言うは易し行うは難しというのが非常にあると思うのですが、そこをいかに進めていくかがこれからの課題だと思います。</p> <p>村田委員はご意見等、いかがでしょうか。地域包括支援センターのほうも大変だったと思いますが。</p>
村田委員	<p>やはり、色々な会議で「繋がる」とか「居場所づくり」というのが課題になってきています。私がすごく気になったのが、1ページ目の「自治組織の加入率」が、平成28年度に比べて約10%下がっているのです。どこも「自治組織の加入率を上げましょう」というお話は出ていると思うのですが、それはふじみ野市の周りの市町村も下がっているのか、ふじみ野市だけこれほど下がっているのか、どちらなのかによって今後の課題、加入していただく課題が大きくなっているのか、もし周りも下がっていて、ふじみ野市も下がっているのであれば、自治組織に入って繋がるというよりも、入らなくても地域が繋がる方向性も考えていかないと、目標の加入率60%を達成するにはかなり頑張らないと到達しないのかなと思いました。その辺りが今後の課題というか、地域の繋がる方法も変えていかなければならぬのかなと感じました。</p> <p>あと、18ページのホームページのアクセス数がかなり増えていてすごく良いことだなと感じました。もうひとつみなさんが言っていた「市民が情報を得る」というところで、ふじみ野市には「Fメール」というものがありまして、それが例えば「市で実施するイベントがこの日にあります」とか「採れたての野菜を市役所の入り口で売ります」とか、あとは迷い人の連絡や、詐欺の電話の発生の情報を市役所がFメールで発信していますので、登録件数を増やしていければ、情報も受け取りやすくなるのではないかと思います。</p>
山本会長	<p>確かに私もこの「自治組織の加入率」というのはなかなか厳しいものがあるなと思いましたけれど、おっしゃる通り、ここも増やしつつ、でも何かほかのところで繋がっていく方法というの必要なのかなと思っています。</p> <p>正田委員いかがですか。初めてご出席いただいたと思うのですが、もし何かお考えになっていること等があれば教えてください。</p>

正田委員	<p>ハローワークの方では、資料の31ページに「ふるさとハローワーク」について載っております。引き続き、市役所とともに「ふるさとハローワーク」についてはPRしていきたいと思っております。</p> <p>また、福祉関係ですと「ジョブスポットふじみ野」にも関わっておりますので関係課と連携をしながらふじみ野市にお力添えできるようにしたいと思っております。</p> <p>私の住所はふじみ野市ではないのですが、私の住んでいる地域でも似たような課題、みなさんのおっしゃるように地域には高齢者が多く、私も地域で班長をやっていて、輪番制でまわってくるので仕方なくやっているといった状況です。このあいだ側溝清掃というのをゴールデンウィークにやりまして、地区の役員は70歳くらいの方がやっているというのを聞きました。私はまだ若いくらいで「あなた方の世代でやってもらわないと困る」と言われましたけれども、どこの地域も同じなのだなということを実感させていただきました。</p>
山本会長	<p>今後とも専門の立場から、今のようなお話でもご意見をお願いしたいと思えます。</p> <p>少し時間を取ってしまったのですが、先程申しましたように今日のところで第2期地域福祉計画の成果の確認が終わりになります。皆さんから出た意見を、第3期計画で少しでも進めていけばということが必要になりますので、時間を取りましたけれども、しっかりとご意見を聞かせていただきました。</p>
山本会長	<p>それでは、続きまして議題の「(2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画の策定スケジュールについて」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料No. 2により、令和4～5年度のスケジュール概要を説明)</p>
山本会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、説明のありました策定のスケジュールについて何かご意見はありますか。</p> <p>岡田副会長、どうぞ。</p>
岡田副会長	<p>2つ気になることがありまして、お伝えさせていただきます。</p> <p>1つが、地域福祉計画の策定には住民参加が大変重要な要件になっていますが、その住民参加が十分担保されているかという点です。団体者ヒアリングで色んな関係者にヒアリングして様々な声を拾っていくというのはとても重要で、また市民アンケートでもきめ細かく情報を拾っていくのだと思うのですが、このアンケートが無作為抽出ということで、この計画に参加したい、意見したいという一般市民の方々が意見できるかどうかという点で、様々な課題やニーズ、必要な施策、最後にはパブリックコメントがありますが、それ以前に住民懇談会やそういったところはコロナ禍の中で難しいかもしれませんが、別の形、例えばホームページによる意見募集や意見箱設置するといったところを少し考えた方がいいのかなと思います。</p> <p>もう一点が、今の議論を聞いておられますと、初めて民間の一般市民の生活の中でこの計画がどう動いているのかというのが、委員のメンバーの方から見せていただいたような気がしました。</p>

山本会長	<p>そういった点で、今回第2期計画の総括ということになっている訳ですが、この計画の推進・評価をどう行っていくのか、そこを総括する必要があるのではないかと思います。</p> <p>具体的に言いますと、行政の制度がどう動いているのか、どう決められているのかはとても見えるのですが、一般の住民・民間がどのように動かしているのか、どう受け止めているのかということが見えないというのが1つの課題なのかなと思ったところでした。その点では、地域福祉活動計画との関連・役割分担というところも、この推進・評価と絡めて少し議論した方がいいのではないかと思います。</p> <p>第2期計画の推進のところ、以前社会福祉協議会の植草係長がとても新たな考え方で地道に地域づくりの実践を進めているというところでお話しいただいたところでしたが、さらにこの地域福祉活動計画と関連付けてこの計画を住民が進めていくということをもう少し見せられたらいいかなと思いました。</p> <p>貴重なご助言だと思いますが、今のところどのようにお考えか、1つは住民懇談会の開催、もう1つは地域福祉活動計画とどういう風に関係持って作っていくのかというのはいかがでしょうか。今のところのご計画で結構です。</p>
事務局	<p>地域福祉活動計画の方が、おそらく来年度に策定を予定していると伺っておりますので、一緒に進んでいくこととなります。令和5年度に地域福祉計画と地域福祉活動計画の策定が同時に進むこととなりますので、その中で一緒に作っていくことで、その都度審議会のタイミング等で、進捗報告ですとか、ご意見いただいたりして、それぞれに持っている審議会同士のコミュニケーションを何らかの形で図りたいと思っております。</p> <p>それから、住民懇談会やワークショップといったものの開催をどうするかというのははっきりとは申し上げられないのですが、例えば、策定経過をホームページ等で情報公開していくということは、特に予算的な裏付けがなくてもできていくかなと思いますので、そういったことも含めて検討させていただきたいと思います。</p>
山本会長	<p>地域福祉活動計画が来年度ということであれば、社会福祉協議会さんが行われる住民懇談会の意見をこちらにも反映させていただくとか、一緒にやらせていただくということも考えられるかなとも思います。ですので、もしそういう計画があればぜひ、参加者が少ないかもしれないけれども、そういうことを地道にやっけていかなくてはいけないかなと思っています。</p> <p>他に、何かスケジュールに関してご意見ありますでしょうか。</p> <p>(他の委員からの意見等なし)</p>
山本会長	<p>では続きまして議題の「(3) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定に伴うアンケート調査について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料No.3-1～5により、アンケート調査概要、市民・専門職アンケートの変更点等を説明、調査票についての意見を各委員へ依頼)</p>
山本会長	<p>本来なら時間を取ってアンケートについてご意見いただきたいところな</p>

	<p>のですが、本日はお時間も過ぎておりますので、事務局からありました期限までにとということによりよろしくお願いいたします。</p>
金田委員	<p>すみません、1個だけよろしいでしょうか。 前回のアンケートの回答率を教えてください。</p>
事務局	<p>前回のアンケートの回答率は、市民向けは2,000件のうち673件で回収率33.7%です。専門職は50.3%といった状況になっております。</p>
金田委員	<p>一般の方は回収率が低いのですね。</p>
事務局	<p>最近地域福祉計画を策定した他自治体に確認したところ、40%程度は回答を得ているので、そのくらいのサンプル数は何とか得たいというところで、今回考えております。</p>
山本会長	<p>ぜひ小さなことでも結構ですので、皆さまのご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
山本会長	<p>4. その他 では議題の「(4) その他」いかがでしょうか。  (事務局より、特になし)  これで、本日予定されていた議題はすべて終了いたしました。 みなさま貴重なご意見いただきましてありがとうございました。 これを持ちまして議長の任を解かせていただきます。ご審議いただき、誠にありがとうございました。</p>
岩崎課長	<p>議長を務めていただきました山本会長、ありがとうございました。 それでは、事務局より連絡事項を申し上げます。  (審議会委員報酬の振込予定等について事務連絡)</p>
岩崎課長	<p>5. 閉会 それでは閉会にあたりまして、岡田副会長よりご挨拶をお願いします。</p>
岡田副会長	<p>皆様、本日はお疲れさまでした。 私、4月から高崎健康福祉大学に所属が変わりまして、今、埼玉県小川町から来ています。「まちづくり幻想」という本を最近読んで面白いなと思ひまして、サブタイトルが「地域再生がなぜこれほど失敗するのか」というもので、つまり、前提方式が間違っているとどれだけインプットしても、望むアウトプットが出てこないというように書いてあります。 今回、みなさんの議論の中で、「地域づくり幻想」という前提認識の部分を取り直すきっかけになったと改めて思ひました。 コロナ禍で策定する第3期地域福祉計画はふじみ野市初めてですので、これからの前提認識の部分をもっと見つめ直すというのをやっていくのだと思ひました。 皆さんお疲れ様でした。今後ともよろしくお願いいたします。</p>

事務局	以上をもちまして、令和4年度第1回ふじみ野市地域福祉計画審議会を閉会いたします。 皆様、ありがとうございました。
-----	---